

朔北の大河を被っていたなごりの氷が解け出して、渡り鳥が南北へ行き交うころ

天塩川ひーふる

道北移民！新しい時代が芽吹く。

道北移民！新しい時代が芽吹く。

2000年、福岡から上京。

バブル後にもかかわらず株は売れ、営業成績は上々、高収入を得られるようになった。が、長時間勤務や、更なる売上を求められるストレスからうつ病を患う。2003年、会社を退職。広島の実家で療養中に、

営業能力を見込んでくれた東京の社長から「ブロック販売の会社を興さないか」と誘われた。そのブロックをがむしゃらに売って軌道に乗り、他にも事業を拡げ、しらすしらすのうちに会社が増えていった。

夢中で働きながら、またある時、疲れを溜め込んで自分を見失っていることに気づいた。

それで2009年6月、もう一度、高回転の歯車を止めようと会社を整理、部下に譲渡したり、閉鎖した。リフレッシュのために度々北海道内を旅していた。「宿に泊まるより家を借りたほうが安いよ」とアドバイスされたことがきっかけで、名寄市内に住宅を借り東京との二重生活がはじまった。

移住の決め手は「子育て」

とりあえず住んでみたら、薪割りしたり畑を作ったりの田舎暮らしにワクワクしてきた。釣り、キャンプ、旅にも気軽に出来る。そして、知らず知らずのうちに先から「早く名寄に帰りたい」と思うようになっていった。

子どもを授かったとき、妻に「どこで子育てする？」って訊いたら、即座に「北海道！」という答えが返ってきた。そこで、名寄への移住を決断した。

今、名寄に住みながら、北海道の海産物などを中国や台湾に送ったりする貿易の仕事と、クルマ買取販売の仕事をしている。そして道北の仲間たちとカヌー、釣り、キャンプ、バックカントリナーなどを複合的に

流転する人生
1974(昭和49)年、広島県福山市生まれ。地元高校を卒業後、福岡県の予備校に通いながらテレビの番組制作をする映像プロダクションのアルバイトを始めた。途中で大学進学をあきらめ、ここで就職。契約社員になり、旅番組の制作クルーとして、月十二万四千円で時間無制限に働く無我夢中な暮らし。仕事は面白かったが、常にお金が足りない状態。将来にも不安。そこから抜け出すために、コンビニで求人雑誌をめくって見つけたのが証券会社の営業の仕事だった。





釣り人 会社経営 名寄市在住
土井雅史さん

楽しめる旅行会社をひそかに
計画中。

道北は厳しい自然が 楽しめる場所

「道北での暮らしは、リラック
スできますね。能動的に自然
を楽しめ、そして自分自身を
取り戻せる場所です。ここでは、
家から5分でカヌーも出来るし、
釣りもできる。フィールド遊び

が好きならにとっては天国です。
不満なことは特に思い浮か
びませんね。冬だつていいですよ、
ワカサギ釣りなんかも楽しいし。」

音威子府で焼肉を！

「今は、田舎暮らしの覚悟
も出来てきて、人生の第2ステージ
を進んでいる気分です。
実はいま、音威子府村に魅
力を感じていて、そこに焼肉店

を開こうかと構想を練ってい
ます。そのときは住処も、名
寄の市街地から出て。町外れ
村外れの自然と一体感がある
場所に移るかもしれません。
それにしても、この道北の大地
が、私のかけがえのないベース
キャンプです。

手付かずの自然の面積が、
道内でも最も多い場所がここ
です。人間が入っていないとい
うことはそれだけ厳しい環境
にあるということですが、その
大きな自然さえも楽しめる
自分になりたい。そんな自分
の度量を試せる、そこが道北
の魅力なんです。」

旅人をもてなす宿に、 北の旅人の先達あり



移住の きっかけ

1970(昭和45
)年名古屋生まれ。
郵便局員として働く。
年に1度はバイク
で北海道ツーリング
していて、いつしか北
海道で暮らしたい
と思うようになった。
そして旅人の視点

から宿の使い勝手が分かる、旅
人をもてなす仕事をしようと
考えるようになった。

「北海道内もあちらこちら
を見て歩きましたが、特に名
寄とその周辺の自然が気に入
り、住みやすいと思って数年後
に移住を決断しました。」

安定した職業から自営業に
転身することに、周囲は当然の
ように反対したが、その反対

「アウトドアで子育てを楽しむ」写真館





を押し切って、2002年に名寄市内日進地区にユースホステルを建設、営業をはじめた。

名寄での暮らしぶり

「来て11年間、名古屋に住んでいたときと変わらない生活が出来ていますね。日用品は問題なく手に入るし、不自由はありません。アウトドア、バイク、スポーツ用品など趣味の物が手に入りやすいのですが、これらはインターネットで買います。」

そしてスノーボード、クロスカントリースキー、夏はバイクで林道を走ったり、登山、閑散期には旅に出たりして楽しむ。

「雪が多かった今年ですが、除雪もさほど苦労に思いません。ずっと住んでいる地元の方には分からないかもしれないのですが、外遊びが好きなので、冬の方が景色は白くてきれいだし、吹雪やシバレル朝なんか好きですよ」

「(富良野や美瑛ではなく)どうして名寄なの?」と訊かれます。

まず、観光バスが押し寄せない静かなところ。雪が好きなのでスノーボードに最適な雪質の良さもあります。雪の結晶が見えるなんて、スゴイことなんですよ。

バイクが入れる林道もたくさんあります。名寄川、天塩川でのカヌーもすぐそこです。名寄は、私がやりたい遊びのフィールドで満ちています。」

移住を増やすヒント

「北海道に住んでみたいという人は多いのですが、生活のための仕事を得づらいことがネックですね。実際に、何か特別な技術や資格がないと、働ける場が少ないようです。」と、地域に就労場所が無い現実を憂いている。

「私の場合も、当初は反対されましたが、何とか経営ができています。慌しい都会で働くよりよっぽど気が楽、幸せです」

よ。働き場が増えたと、移住者が増えるんじゃないかと思うんですが。」

まだまだ旅の途中

「JRで来られる滞在型のお客様が多いので、歩くスキー、山歩き体験、サイクリングなどをサポートするツアーを提供しています。」

宿泊施設のみにとどまらず、時に採算を度外視してもイベントツアーを企画しながら、道北の良さを伝えていく。

「道外客にとって魅力あふれる資源がたくさんあります。例えば宗谷本線のラッセル車、昼間に鉄道を豪快に除雪する様子が見られるのはこの辺りのレアな観光ポイントです。」

「私がやっていて楽しいことはお客様も楽しいはずだと思います」かつての林青年と同じように、この道北の良さを求めて来る旅人に、これからもずっと寄り添って、林さんなりの道北の楽しみ方を提案し続けたと考えている。



サンビレーユースホステル代表、名寄市在住 林真之介さん

若い人への移住のアプローチは

北・北海道中央圏域定住自立圏(名寄・士別を中心市とした道北13市町村)で3月策定されたビジョンで、各市町村の代表的な移住施策は、北海道移住促進協議会に参加して団塊世代の受入れに力点を置くこと。また上川北部3町村で組織する移住窓口「きたいっしょ推進協議会」でも、主に定年退職者(就労の必要の無い方)を対象にした取り組みである。これまでは、農業の新規就農制度以外には、生産年齢人口層への積極的な移住アプローチには至っていなかった。ところが最近、下川町では森林組合やNPO活動の中にその萌芽がうかがえる。



「道北とふれあう旅の交差点」ユースホステル写真館



博物館・資料館・記念館 編

士別市立博物館

問合せ電話：0165-22-3320

天塩川ものがたり記念すべき第1回にご登場いただいたのは、士別市立博物館館長の水田一彦さん(写真左)でした。館長は天塩川の自然や不思議について熱く語っていただき、30分では収録できず、2回に亘って放送する事になってしまいました。士別市立博物館は平成23年4月にリニューアルしましたが、これは朝日町と合併した事で士別市は天塩川の源流を持つ街となったことを期にテーマである「天塩川流域の自然と歴史」をわかりやすく展示したものです。水田館長にとっての天塩川の魅力は開発された川ではなく、こんなに豊かで楽しめる川は他にはない。この天塩川を後世に残したい。と力強く訴えています。



天塩川の魅力を後世に残したい!

Airてっし「天塩川ものがたり」として平成23年6月8日・15日に放送されました

名寄市北国博物館

問合せ電話：01654-3-2575

取材当時は北国博物館の館長をされていた鈴木邦輝さん(写真右)ですが、現在は名寄市教育委員会の教育部長です。天塩川は勿論、北海道の歴史を語る場合、絶対に欠かせない人物が「松浦武四郎」です。取材にお邪魔したら鈴木館長は武四郎が書いた「天塩日誌」をはじめ、松浦武四郎にまつわる資料を用意していただいております。館長は我々に「自然が豊かな土地に住んでいることを自覚し、アイヌの人たちが残した知恵と伝承を学びながら、四季を通じたスローライフが送れるということを知ってほしい」とおっしゃっていました。まさに現代の松浦武四郎ここにありだと、感じてしまいました。



現代の松浦武四郎を見た!

Airてっし「天塩川ものがたり」として平成23年6月22日に放送されました

天塩川歴史資料館

問合せ電話：01632-2-2071

天塩川歴史資料館の入口を入ると、左手に受付がありますが、そこに気さくなおばちゃんが「いらっやいませ!!」と迎えてくれます。管理人の高柴幸子さん(写真左)です。打ち合わせをしているうちに、この方は管理人さんじゃないよね。とスタッフは顔を見合わせました。更に館内を案内していただくと高柴さんはまさに館長さんでした。展示品は600点以上もあるのにすべてを細かくご説明いただけます。すごい! 高柴さんは「自然にあふれていて海の幸、山幸といった沢山の幸に恵まれており町の皆さんとも親戚のようなお付き合いが出来るのが天塩町の魅力の一つ」とおっしゃる天塩のお母さんのようでした。



管理人さんですが、まるで館長です!

Airてっし「天塩川ものがたり」として平成23年12月14日に放送されました

けんぶち絵本の館

問合せ電話：0165-34-2624

絵本の好きな人には素敵なお店が多いですね。剣淵町の絵本の館で司書をしている高橋愛佳さん(写真右)もその一人でした。本当に絵本と子供たちが大好きだということが会話の中でひしひしと感じられました。高橋さんは来館された子供たちやお母さんたちに絵本の読み聞かせのおはなしタイムを行ったり工作などを行なって、ゆったりとした楽しい時間を過ごしていただいております。絵本コーナーにはなんと1万8000冊もの絵本が作者別に綺麗に陳列されており、高橋さんを含めた学芸員さんの優しい気持ちを感じられました。高橋さんは「絵本には子供たちに夢を発信する魅力がある。靴を脱いで絵本を読む事が落ち着いた気持ちを生む」とおっしゃいます。



絵本のように素敵な司書さん!

Airてっし「天塩川ものがたり」として平成23年9月26日に放送されました

エコミュージアムおさしまセンター

問合せ電話：01656-5-3980

音威子府村を天塩川沿いに北上すると、右手にエコミュージアムおさしまセンターへ向う橋が現れます。このエコミュージアムは彫刻家の砂澤ビッキの作品を集めたセンターで、ここのスタッフ河上寛さん(写真左)はまるでビッキさんかと思うような風貌でした。というもビッキさんが亡くなるまでの十数年間ここ音威子府おさしまに滞在し作品制作をされていたときに、河上さんもビッキさんと深く交流があったということで、ビッキさんの精神が河上さんに受け継がれているからではないでしょうか。ビッキさんの作品や生い立ち、音威子府に来るまでの経緯などをお話される河上さんはなんとキキララと輝いて見えていそうありませんでした。



砂澤ビッキの生まれ変わり?!

Airてっし「天塩川ものがたり」として平成23年12月7日に放送されました

塩狩峠記念館

問合せ電話：0165-32-4088

和寒町の南の入口に塩狩峠がありますが、そこに三浦綾子さんの小説「塩狩峠」を記念して和寒町が建てたこの記念館があります。この塩狩峠記念館を管理されているのは和寒町役場産業振興課で、担当されているのが商工観光労政係長の目黒紀嗣さん(写真左)です。目黒さんが塩狩峠記念館の担当になってからは大変忙しい日々が続いていらっしゃるそうです。今回もそうですが、ラジオやテレビ、新聞の取材と出演や各地への告知訪問など、広報部長といったところでしょうか。特に三浦綾子さんの記念館を和寒町に建てた経緯や苦労話などは大変詳しくお話をされておられました。確か三浦綾子記念館は実家である旭川にありますが、また違った様子を感じられる記念館です。



三浦綾子を語るのは私です!

Airてっし「天塩川ものがたり」として平成24年1月4日に放送されました

中川エコミュージアムセンター

天塩川ぴーぐる」2011初冬号でご紹介いたしましたので、併せてご覧下さい。

天塩川中流域でいきいき情報発信!

コミュニティラジオ局

78.8 Airてっし

地域情報番組!!

平日 7:00~「おはようてっし」~10:00
天気・交通情報/JR名寄駅~いっしょに/てっしインフォメーション/名寄市からのお知らせ/イオン情報/名寄の振興公社情報/てっしネットワークチャンネル/名寄新聞・北都新聞ニュース/北海道新聞ニュース/西條情報/給食献立/モーニングブレイク/12星座占いランキング

12:00~「お昼の公園通り」~14:00
天気・交通情報/名寄新聞・北都新聞ニュース/名寄市からのお知らせ/新着図書情報・もう一品いかが?・ちょっぴりおいしい話・ミニポップチャート/北海道新聞ニュース/天気・交通情報

16:00~「てっしジャーナル」~18:15
天気・交通情報/JR情報/北海道新聞ニュース/旭川地方気象台/名寄警察署パトロールメモ/週末観光情報/交通安全メモ/お悔やみ情報/名寄市から/名寄振興公社情報/名寄新聞・北都新聞ニュース



FM 78.8MHz 名寄周辺

天塩川ものがたり Web版 <http://www.nayoro.fm/teshiogawa/>

大河と共に 北へ向かえ